

中洗2 遺跡発掘調査説明資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 令和5年9月2日(土)

調査要項

遺跡名	中洗2 遺跡 (遺跡番号 382-198)
所在地	山形県東置賜郡川西町大字時田
時代・種別	奈良・平安時代 (集落跡)
起因事業	道路改築事業 一般国道287号 米沢川西バイパス
調査依頼者	山形県置賜総合支庁建設部道路計画課
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
調査指導	山形県観光文化スポーツ部博物館・文化財活用課
調査協力	川西町教育委員会教育文化課
現地調査	令和5年6月1日から9月22日まで
調査面積	2,100㎡
調査担当者	調査研究専門員 齋藤健 (現場責任者) 主任主査 小林圭一 調査員 志鎌久悦 調査員 小幡桃花
検出遺構	竪穴住居 溝 土坑 柱穴 ピット
出土遺物	土師器 須恵器 縄文土器 石器 陶器



図1 遺跡位置図 (1/50,000)

墳時代については、5棟の竪穴住居と溝などが検出されました。特に、一辺8mほどある大型のST1 竪穴住居は、周囲に周溝をめぐらせるなど特異な形態をしています。調査区を斜めに横断する幅4mほどのSD11 溝からは、古墳時代後期を中心とする遺物が出土しています。他に、掘立柱建物も2棟検出されました。

今後、さらに遺構を精査して記録作業を行い、現地調査終了後は遺物や記録の整理作業を行い、詳しく年代観などを検討して報告書にまとめる作業を行います。



写真1 表土除去と面整理作業 (北西から)



写真2 ST1 大型竪穴住居とSD2 周溝 (北から)

1 調査の概要

中洗2 遺跡は、一般国道287号米沢川西バイパスの建設工事に先立ち、令和4年に県の文化振興・文化財活用課(当時)が実施した分布調査で発見された遺跡です。周囲には、平成10、11年度に発掘調査を行った古墳時代、奈良・平安時代の太夫小屋1・2・3遺跡や平成28年度に発掘調査を行った、平安時代の壇山窯跡などがあります。

今回は、事業範囲にかかる2,100㎡を対象に、6月1日から9月22日までの予定で発掘調査を実施しています。調査は、重機で表土を掘削した後に、ジョレンを用いて面整理

を行って遺構を検出しました。数度にわたる圃場整備事業により掘削され、残存状況は良好とはいえ難いですが、古墳時代後期を中心とした遺構を確認することができました。

2 見つかった遺構と遺物

今回の調査では、縄文時代、古墳時代、奈良時代、近世の遺構や遺物を確認することができました。

縄文時代については、明確な遺構を確認出来ませんでした。土器片や石器、フレイクなどの散布を確認することができました。古



写真3 ST3 竪穴住居検出状況 (北から)



写真4 ST4 竪穴住居検出状況 (西から)



写真5 ST5 竪穴住居検出状況 (東から)



写真6 ST6 竪穴住居検出状況 (西から)



写真7 SD9 溝検出状況 (西から)



写真8 SD11 溝精査作業 (北から)

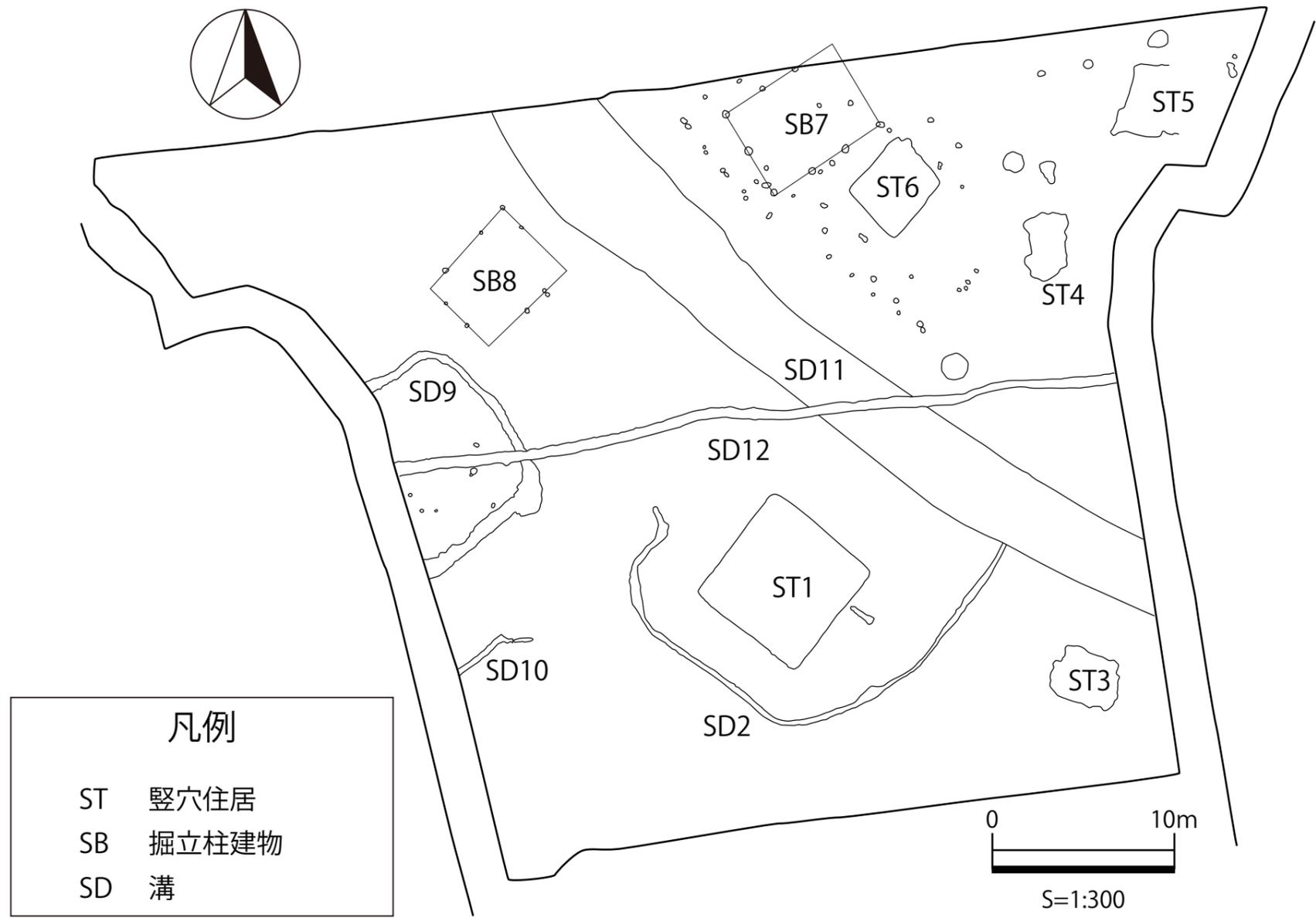


図2 遺構配置図